

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：心理・社会福祉学科

資格：教授

氏名：石川 道子

研究分野	研究内容のキーワード
発達障害の診断と支援、乳幼児健診、療育、特別支援教育など地域支援ネットワークに関するシステム、ペアレントトレーニングを代表とする子育て支援	発達障害、乳幼児健診、療育、特別支援教育、地域支援システム、子育て支援、ペアレントプログラム
学位	最終学歴
医学博士	名古屋大学 医学部 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 医師免許証	1976年05月29日～現在	医療機関で長期にわたり、発達専門分野の診療を担当したことにより、多数の症例を経験した。これらの知見のほかに、児童相談所や療育機関や研究機関などの多職種が協力し合う職場での勤務によって、療育の具体的方法や健診制度や施設支援などの地域支援ネットワークの研究を実施した。
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 発達障害親子支援ハンドブック	共	2013年6月10日発行	昭和堂	第6章発達障害の子とかかわる～保育園・学校の中で～事例を提示し、その対応を解説する形式で、解説編を担当 杉村省吾、本多修、齊藤文夫、石川道子、大島剛、萱村俊哉、勝田麻津子、その他
2. 保育の心理学	共	2013年4月10日	ミネルヴァ書房	第13章 気になる子どもへの対応 p180-202 河合優年、中野茂編著、寺井朋子、西本望、石川道子
3. 特別支援教育実践のコツ	共	2011年9月16日	金子書房	第4章授業態度がうまくとれるように第3節着席の指導 辻井正次、杉山登志郎、植藤雅義、堀田あけみ、熊谷恵子、増田貴人、小泉晋一、石川道子、その他
2 学位論文				
1. Developmental Disorders in Histidinemia -Follow-up -age Development in Histidinemia	単	1987年	Acta Paediatrica Japonica Vol29	新生児期のマスキングで診断されたHistidinemia症児のフォローアップ研究。新生児期から学齢期まで、定期的な行動観察と心理神経学的テストを実施した結果と、すべての経過を終えた32例について、発達の的に問題が見られた割合をまとめた。
3 学術論文				
1. 発達障害の特性を理解する	単	2015年03月発行	公益財団法人兵庫県人権啓発協会：研究紀要，第16輯、50-67	人権啓発の一環として、注目を集めている発達障害についての総論。概念が時代的な影響を受け変化していることを知り、支援につながる障害の特性理解が必要なことを理解してもらうことを目的とした。内容は、自閉症スペクトラム (ASD) の情報処理特性の理解、特性から引き起こされる行動の特徴、支援が必要な困った行動の具体例についての解説と支援の順に記述した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. 学習障害の概念、症候、診断基準	単	2014年10月26日発行	星和書店：精神科治療学，第29巻増刊号、355-359	学習障害の概念について、教育用語と医学的診断が併用されていることによる混乱を説明。歴史的変遷から開始することによって、現在の診断基準が不明確さを理解したうえで、文科省、全米学習障害合同会議（NJCLD）やICD-10による診断基準を紹介し、次に学習障害の症候を記述している。
3. 発達障害のある人の子育て支援	単	2013年4月15日初版発行	発達障害医学の進歩 25	平成25年3月の発達障害医学セミナーで発表した内容に加筆した論文で、長期追跡例の成人期の状態とペアレントトレーニング実践の中での子育ての困難さの関連について記述した
4. 言葉の遅れ	単	2012年	今日の治療指針，1198.	
5. 超低出生体重児、極低出生体重児の9歳時のWISC-R知能検査と人物画	共	2012年	小児の精神と神経，52，183-192.	松尾久枝・二村真秀・石川道子
6. 自閉症スペクトラムのこだわり行動とその対応	単	2012年	アスペハート，31，38-41	
7. 武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学センター 2011年度活動報告	共	2012年	武庫川女子大学教育研究所研究レポート，42，Pp.107-121.	河合優年・難波久美子・佐々木恵・石川道子・玉井日出夫

その他

1. 学会ゲストスピーカー

2. 学会発表

1. 母子相互作用時のカテゴリカルな姿勢分析の妥当性検討	共	2011年06月	第105回日本小児精神神経学会 抄録集P. 37.	朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター），6月
------------------------------	---	----------	---------------------------	-------------------------

3. 総説

4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績

5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等

6. 研究費の取得状況

1. 発達障がいの子どもの睡眠改善プログラムを基盤とした生活臨床に関する研究	共	2014年04月から	科研費 基盤研究A	分担研究者：発達障害児に合併しやすい睡眠障害は、子育ての困難感につながりやすい症状である。睡眠障害に対する対応としては、薬物の使用も試みられているものの年齢や臨床像の多様性も加味されて、有効な手法が確立していない。今回の研究では、実態調査から開始し、改善プログラムの提案を目標としているので、協力者への連絡、プログラムの試行を役割としている。
2. 乳幼児期の個体・環境要因が児童期の社会的行動に及ぼす影響についてのコホート研究	共	2011年04月から、2014年3月まで	科研費 基盤研究C	分担研究：代表 河合優年

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2014年09月から	日本未熟児新生児学会
2. 2014年04月現在	日本小児心身症学会
3. 2014年04月現在	日本発達障害学会
4. 2014年04月現在	日本小児科学会
	日本小児精神神経学会
	日本保育学会
	日本小児神経学会